

平成25年度 教育警務委員会と教育関係者との意見交換会報告

教育警務委員会では、「地域で取り組む子どもの教育活動支援」をテーマに、以下のとおり、地域で県民の皆さんの生の声をお聴きする意見交換会を開催しました。

1 開催日

平成25年7月3日（水）

2 場所

朝日町立あさひ野小学校

3 参加者

県議会側

教育警務委員長	井村昭彦
〃 副委員長	奥野詠子
〃 委員	鹿熊正一
〃 委員	横山 栄
〃 委員	坂野裕一
〃 委員	火爪弘子
地元議員	上田英俊

関係者

放課後子ども教室の運営者（コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター）、PTA代表、学校関係者、町関係者 計12名

4 テーマ

地域で取り組む子どもの教育活動支援

5 意見

(1)放課後子ども教室の指導者として関わってきた中で、感じていること

コーディネーター：

- ・ 放課後子ども教室に対して、子どもたちが期待するものと親が期待している役割、例えば保育とか、教育、どちらにしても、ずれているような感じがする。

委員：

- ・ 放課後子ども教室がどういう性格のものかというのは、必ずしもはっきりした定義はなくて、それぞれの皆さんの地域でどんなものをやりたいのかということで組み立てていくのだと思う。

教育活動推進員：

- ・ 教室でやっていることが、マンネリ化してきているのではないか。また、教室を始めたときからみると、指導者が高齢化し、人数が減ってきて、子どもたちへの指導も難しくなっている。
- ・ 勉強というよりも子どもの見聞を広げるといった体験の場としては、非常にいい機会を与えていると思う。
- ・ 子どもたちに教えたことはたくさんあり、限られた時間の中で十分にできないが、その都度、その都度、丁寧に教えていければいいのかなと思う。

教育活動サポーター：

- ・ 学校生活だけでは得られない連帯感を得られたり、子どもたち同士、何年も通ううちに出来る絆みたいなものを感じる。
- ・ 親に言われて来て、最初、嫌な顔をしていた子も、だんだん楽しい顔になってきている。

(2) 放課後子ども教室に参加する子どもたちから感じ取られること

P T A代表：

- ・ 絵手紙教室で作ったものは、とても風流な感じがするし、今でも子どもが大事に持っている。また、野菜教室においては、野菜嫌いだった娘も、教室で料理を作ることにより、おいしかったと話していた。
- ・ 子どもが発する言葉とか表情から、子どもは間違いなく喜んで行っていると思う。

学校関係者：

- ・ 子どもが指導員に従わないようなことがあれば、私達の行っている教育の成果は出ていないのかなと思うことがある。
- ・ 一人だったら宿題を放り出してしまうようなことも、仲間がいたから宿題を放り出さず、最後まで頑張ってやりきる様を見て、そういった学び合いが育っているのかと実感した。
- ・ 学校では主に横のつながりで子どもたちが関わっているが、学年を越えた縦のつながりがかなりあり、いい人間関係づくりができていないかと思う。コミュニケーション能力を育てていく上でもいいことではないかと思う。

(3) 地域力（地域の人材、伝統芸能、行事など）を生かし、この事業をさらに充実させるために必要なこと

教育活動推進員：

- ・教室によって、一人の方が非常に負担しているようなことも考えられる。もう少し広く一般の方々に、こういう教室で、皆さんの能力を子どもたちに教える、伝えることができるということを知ってもらうことも大事ではないか。

P T A代表：

- ・ 放課後子ども教室で、マンネリということを考えず、伝統的なものであれば、継続して続けていくのがベストでないか。子どもはマンネリと思っていない。
- ・ 親が求めるもの、子どもが求めるものという話があったが、単に、放課後、子どもを見てもらえるというのは、親にとって今の核家族化している状況では有意義なことである。
- ・ 参加したいと思っているけれども、親の仕事の関係で参加できない子に対して、参加しやすいような体制を整えればいいと思う。

委員：

- ・ アンケートをとられ、4割が放課後子ども教室に期待しているということだが、預けたいと言っている中身が一様ではないのではないかという気がする。その辺を、関係者の中で話し合っ、今年の方角性みたいなものが定まっていけばいいのではないかと思う。
- ・ 一定の時間、子どもたち同士で触れあって、そういう中で小さいときから人間関係とかコミュニケーションを身につけることが、一番大事だと思う。料理、英会話、絵手紙とか、いろんな経験を小さいときにするということが極めて大事であって、そういうことを経験しない子どもと、何でもいいから経験した子どもとの違いというのは、すぐでなくても確実に出てくると思う。

学校関係者：

- ・ 保護者の方の期待で、保育か教育かということがあったが、結果として非常にいい効果があらわれていると思うので、どちらかということではなくて、ある程度、柔軟に捉えていいのではないか。

町関係者：

- ・ 少子化の影響により、あさひ野小学校にも空き教室があり、何か利用できないかと考えている。
- ・ 建物ありきではなく、まず子どもの居場所を確保することが重要だと思う。

(4) その他

委員長：

- ・ コーディネーターの方を初め、指導されている方々も悩みを抱えつつも着実に子どもたちの成長の姿を感じている様が窺えた。保護者の方々も放課後子ども教室はいい事業だと言っただけは、事業がこの地域に根ざし、子どもたちにとっても成長の糧になっているのだと感じた。

- ・ 今日、子どもたちに接し、また皆様のご意見をお聴きできたことは、私達にとっても大きな学びであり、議会としても、委員会あるいはいろいろな形で、当局とも話を進めていきたいと思う。

